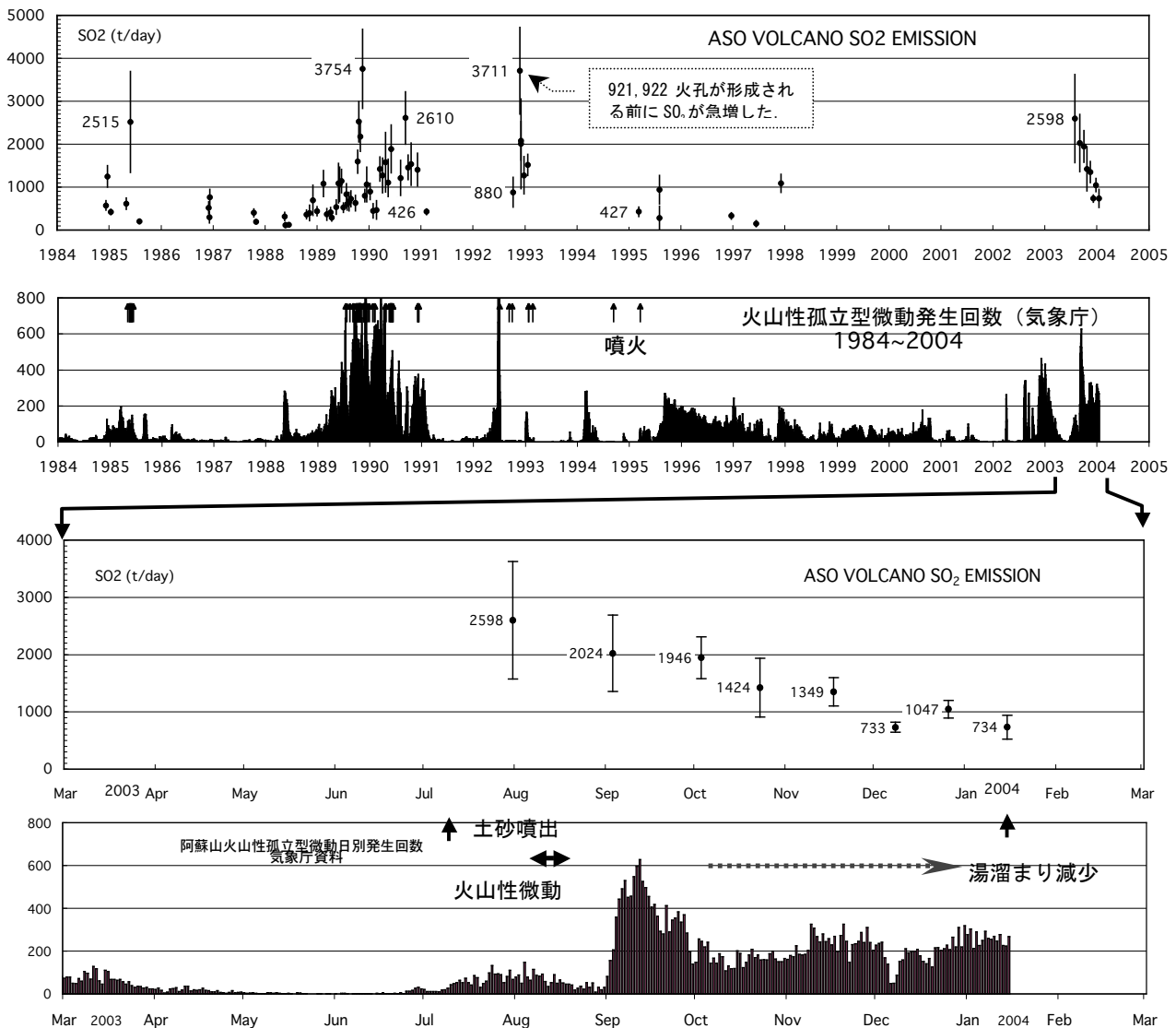


## 阿蘇火山の二酸化硫黄放出量



阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日に大規模な土砂噴出があり、8 月中旬には火山性微動も観測された。それに対応して 7 月 31 日には 2598±1026 ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。放出量のピークは 2003 年 7 月 31 日以前にあった可能性が高い。

2003 年 9 月上旬からは孤立型微動の発生回数が増加し、湯溜まりの減少傾向が顕著となっているが、二酸化硫黄放出量は減少傾向である。

2004 年 1 月 14 日には半年ぶりに土砂噴出が発生したが、翌日の 15 日の測定量は 734±209 ton/day であった。当日は昼ごろ風が弱く、測定値が若干低めに出ている可能性があるが、風が強かった午前中の測定値でも 1000ton/day 程度にはなっていない。

このことから、現在は湯溜まり減少は土砂噴出等の表面活動が活発になっているが、深部でのマグマ活動度は低下しつつあると推測される。